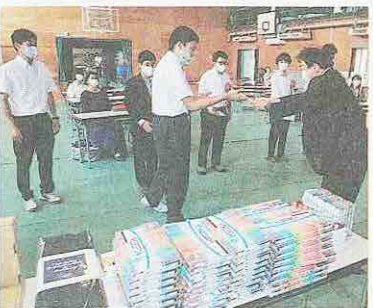


商品彩る絵をありがとう

安城特支校生らへ

高浜の会社が寄贈

心身の不自由な生徒たちの絵を商品の包装や段ボールなどに採用する取り組みを二〇一一年に始めた食品製造販売会社「おとうふ工房いしかわ」（高浜市豊田町一）は二十三日、安城市桜井町の安城特別支援学校で、当時絵を描いた卒業生や在校生らに百万円分の金品を贈った。関連商品の売り上げの一部を充てた。



卒業生や在校生に金品を贈呈する石川社長（左）―安城市桜井町の安城特別支援学校で

いしかわの「だんだんボックスプロジェクト」の一环。絵が採用された十―二十代の卒業生と在校生計七人に各五万円を贈呈した。

言葉で感情などを表すのは難しいという卒業生の竹内快さん（三）は、絵が採用されたのをきっかけに絵を描くのが習慣になったという。石川伸社長（五）は「この活動を通じて多くの人が笑顔になってくれた。次のアーティストが育ってくれるとうれしい」と感謝した。

在校生には画用紙やフェルトペン、紙を切る機械や刺しゅう用の布など六十五万円分を贈った。在校生を代表し、生徒会長で高等部三年生の北浦洗希さん（一七）は「元気で明るい作品を作っています。これからも温かく見守ってください」と謝意を述べた。寄贈品は授業や部活動で利用される。

（福沢和義）